

大阪の コロナ禍3年を 検証する

— 医療・保健所・介護・保育・障がいの現場から —

新型コロナ禍から3年、大阪ではコロナ死者数が全国最多となり、深刻な被害をもたらしました。コロナ対策が後手に回った結果、保健所の機能はパンクし、医療機関は対応に追われ、介護・障がい現場では陽性者の留め置きが常態化するなど、各現場は過酷な状況に見舞われました。

新型コロナが猛威をふるうなか、それぞれの現場では何が起きていたのか。その時、大阪府政や自治体の対応は——。第一線でコロナ禍に立ち向かった現場の目線からコロナ禍の行政の対応を検証します。第8波を見据え、必要な対策を問題提起します。

2022年11月6日(日)13:00~16:30

現地会場

定員50人：大阪府保険医協同組合会館(大阪市浪速区幸町1-2-33)

WEB会場

定員300人：Zoomウェビナーで現地会場を中継

シンポジスト

医療／河原林●●氏(耳原総合病院院長)

保健所／長池敦子氏(守口保健所)、植村亜由氏(富田林保健所)

介護／日下部雅喜氏(●●●●)

保育／●●●●氏(●●●●)

障がい／皿海●●氏(●●●●)

コーディネーター／井上美佐氏(医師・大阪府保険医協会副理事長)

現地参加のお申し込み

大阪社会保障推進協議会までTEL(06-6354-8662)
またはFAX(06-6357-0846)でお申し込みください。

お名前

電話

WEB参加のお申し込み

QRコードから登録、または「大阪社保協」
で検索しHPから登録してください。

